

第 6 章

研究の成果と課題

1 今年度の研究のまとめ

平成23年度初頭、平成23年度のプロジェクト研究では何に取り組むかという職員アンケートを実施した。その結果、「本校の教育をキャリア教育の視点に照らし合わせながら、本校の良い所、改善ポイントを探る」という内容の研究をスタートさせ、キャリア教育についての研修や、キャリアの視点を具現化かつ現実化するために、第6次研究をどのように進めていくかが話し合われた。

その結果をもとにスタートした第6次研究は、今年度で3年目、最終年度を迎えた。研究主題である『社会の変化に対応できる力を育てる実践的研究 ～「今養版キャリア教育」の創造を目指して～』に沿って、1年目は学年・学科で検討を重ね、今養版キャリアプランニングマトリックス（以下マトリックスと略す）の作成に取り組んだ。2年目以降は、課題研究ではマトリックスを活用した生活単元学習と作業学習における実践的研究、プロジェクト研究では「キャリア教育の視点を通した教育課程の見直し」、寄宿舎の研究ではマトリックスを活用した「卒業後を見据えた生活の指導」と題した事例研究に取り組んだ。

また、今年度はキャリア教育の視点を通した教育課程編成に役立てるために、卒業生の実態調査を調査研究として行った。さらに、夏季休業中に行った特別支援教育研修会では、「特別支援教育における『キャリア教育』と『生徒指導』」を主題として、本校および近隣校の課題について幅広く協議し、校内研究へと反映させることもできた。

このように、今年度はこれまでの取り組みを継続しつつ、これを総括し、3年間の成果と課題をまとめる1年となった。

(1) 成果

① 「キャリア教育」の共通理解

本校の研究の進み具合を全職員で確認し合う全体研修会のほか、第6次研究開始当初から行っているキャリア教育学習会、特別支援教育研修会などを通じて、本校の教育活動の在り方について考え、議論を重ねた。特に今年度は、プロジェクト研究に関わる教育課程全体会議も行われ、授業時数や週時程、それぞれの授業の在り方といった具体的な点まで深く考える機会となった。その際、キャリア教育とは何か、マトリックスはどう活用できるのかを考えることができた。

② 教育活動の“整理整頓”

①を下地として、具体的には生活単元学習と作業学習の授業の在り方や評価の方法、教育課程全体の今後の在り方、寄宿舎における生活指導の在り方など、学舎ともに様々な教育活動について整理整頓が進んだ。さらに、調査研究における調査結果をもとに、これまで、及びこれからの教育課程について考えることができた。今後の更なる整理整頓に役立てていきたい。

③ より一層の学舎連携

研究推進委員会に寮務主任に入ってもらふことや、寄宿舎職員に学校の研修会や学習会に参加してもらふことが増え、学舎ともに“今養版キャリア教育の創造”という一つの方向で研究や教育活動を進めるという流れがより強固になった。今後も連携を続けていきたい。

④ 様々な課題に気づけたことが成果

基本的にどの研究組織でも「マトリックスに沿って」「マトリックスを生かして」という言葉をキーワードに研究を進めてきた。本校なりのキャリア教育、すなわちマトリックスの教育方針を普段の指導に浸透させていくという流れを作ろうとしたのだが、後述するような大きな課題が浮き彫りとなった。研究を進めていくなかで疑問点を見出し、課題として次に引き継げるよう残すことができたのは、皮肉ながら成果とも言えるだろう。

(2) 課題

① 「キャリア教育」「マトリックス」の理解

成果で述べたように、キャリア教育の共通理解は様々な場面を設けたり、方法を工夫したりすることで、一步一步進められてきた。しかし、昨年度からより深化する形でこれが進められてきたかどうかは疑問が残り、結局「キャリア教育とは何か」「マトリックスはどのような位置づけか」といった基本的なところが曖昧になってきてしまった。年度当初に行った研究の全体計画やキャリア教育とは何かという押さえの共通理解も、不十分であったためと思われる。そのため、研究を進めていく過程で様々な考え方が行き交い、混乱し、収集がつかなくなったと考えられる。さらに、もともとは職員の思いが積み重なって作られたマトリックスだが、それが過去のものであるという意識があったり、生徒の実態の変化があったり、これに従わなければならないという拘束感が次第に生まれたりした。

結局のところ、校内研究の進め方に問題があったという点は否めない。だからといって、学習指導要領にも明記されているキャリア教育という概念そのものを、後ろ向きに捉えるべきではない。第7次研究に向けて、キャリア教育の推進に向けた校内研究の在り方を今一度考え、立て直し、キャリア教育やマトリックスについての押さえを明確にし、共通理解を進める必要がある。

② 「マトリックス」や「指導内容表」の検証とリンク

マトリックスはあくまで“試案”である。これまでの、そしてこれからの指導・支援の実践を通して内容の見直しが必要ならば見直し、改訂していく必要がある。また、学校教育目標もここ数年来変わっていないが、時代に即したものに変わるとしたら、その達成に向けた道筋であるマトリックスがきちんとした道筋をたどる形になっているのか確認する必要もある。

マトリックスの他に「指導内容表」についても、その存在意義や活用方法について改めて確認し、中身の見直しが必要ならば見直し、改訂していく必要がある。指導内容表は、本校の各指導形態（教科指導、領域・教科を合わせた指導、総合的な学習の時間、自立活動）において具体的にどんなことを指導するのかをまとめたものである。これは、マトリックスよりも早い平成22年度に大幅な改訂を終えている。日常生活の指導の指導内容については平成25年度に見直されたが、この他については一度も見直されていない。また、マトリックスとの相関についても検証されていない。今後、新たに作られたマトリックスと以前からある指導内容表の両方をリンクさせることで、本校のキャリア教育に一貫性・系統性を持たせることができるのではないかな。すなわち、これは「教育課程」の改訂という大きな課題と言える。この改善・解決に向けて、日々の実践を見直したり、生徒の実態把握をしっかり行ったりすることもまた課題と言える。

③ 教職員の専門性向上

「キャリア教育」も「教育課程」も、非常に大きなテーマである。これについてかみ砕いて理解するための研修の機会が十分だったかどうか、振り返る必要がある。キャリア教育学習会や教育課程全体会議という機会はあったものの、その進め方や協議の内容はそれぞれの場の目的を達成しうるものだっただろうか。また、個々人の意見に論理的な理由や根拠があり、建設的に議論が深まるものであっただろうか。さらに、昨年度に引き続き公開授業を実施したが、職員一人一人のスキルアップや、キャリア教育、あるいは特別支援教育に関する専門性の向上につながるものになっただろうか。①で述べたような雰囲気の中で、十分だったとは考え難い。職員一人一人が研究と修養を積み重ね、論理的・建設的な議論や授業づくりを進められるようになることが求められる。

④ キャリア教育と生徒指導

マトリックスに基づいた指導・支援をしたとしても、その効果を左右しかねない問題が近年顕著に見られる。それは、家庭・地域環境や本校入学以前の生育歴などから派生している生徒指導上の諸問題である。その内容は、非行・暴力から異性関係、情報リテラシーの問題と幅広い。特別指導の件数は年々増え、ケース会議ではその指導の進め方について検討が重ねられているが、同じような過ちを再発してしまう生徒もいる。こうした背景から、道徳的要素を取り入れた指導の必要性について議論されることも増えてきた。また、保護者支援の必要性についても年々話題となるケースが増えている。

そもそもキャリア教育とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程である“キャリア発達”を促す教育である。生徒指導とは、生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動である。この2つはいずれも、教育活動全体を通して行われるべきものであるという点で共通している。さらに、学校において生徒一人一人のよりよい人格形成を目指すという点でも共通しており、視点が定義上異なるだけで目指す方向性は同じと言える。従って、キャリア教育の推進と生徒指導上の諸問題解決に向けた取り組みは切っても切り離せない関係にあり、今後の研究推進においては相互の相関と相乗効果を考慮すべきものと考ええる。

⑤ キャリア教育と学校組織

キャリア教育実践のカギは、「生徒が主体となること」「教育課程の見直しと授業改善をすること」「組織の見直しをすること」の3つと言われている。「組織の見直し」については、この研究が始まった当初からにわかに指摘されてきた問題である。本校は全職員に占める期限付き教諭や新採用教諭、長期休業中の教諭の割合が多く、さらに外勤中心の4名は授業に入っていない。なおかつ担任や主任・部長の兼務もあり、実際のところは少ない職員で授業や分掌業務をこなしていることが大半である。それゆえに、授業や業務の本質を見過ごし、場当たりの事に事が進んでしまっていることも少ないとは言えない。

そのため、今年度は校務分掌検討委員会を計7回開き、キャリア教育充実のための組織・会議見直しも進めた。その結果、新しい形は見出せたものの、実現には様々な準備期間が必要ということで次年度からの適用は見送られた。今後、この結果を踏まえて学校運営の在り方を再構築することで、キャリア教育の充実を進めるということも一つの課題と言えよう。

2 次年度に向けて ～第7次研究に向けて～

本研究は、キャリア教育の概念をどのように本校の教育課程や教育活動に位置づけていくか、教職員間で共通理解していくことから始まった。第6次研究の1年目は、「キャリア教育」をどのように捉え、どのように進めていくかを全職員で考える1年であった。その結果、「キャリア教育」の理念や考え方を職員間で共通認識できてきただけでなく、「今養版キャリアプランニングマトリックス」を完成させることができた。

第6次研究の2年目である昨年度、3年目である今年度は、マトリックスの活用に試行錯誤し、マトリックスとは何なのかを改めて見つめ直した2年間であった。生徒を立派な社会人に育てたいという思いを込めて作られたマトリックスが、果たして本校生徒に適したキャリア教育を実践できるものになっているのか、考え直さねばならない。適しているものにした上で、職員一人一人が指導計画の作成、実際の指導、評価などそれぞれの場面においてマトリックスの要素を練り込んで教育活動を展開していくことが求められる。

前項②でも述べたように、このような「教育課程」と言うべき大きなテーマは、もはや研究の域を超えており、次年度以降は教務部が業務の一部として主導していく方向で話が進められている。一方、第7次研究は、教務主導の教育課程改善にもつながる取り組みとなるだろうが、「身近なテーマで」「当事者意識を持って」「小グループで」をキーワードに、研究が日々の授業実践に直結するような形で研究主題・内容・方法を立案する方向性となっている。

いずれにしても、これまでも、これから、職員一人一人が真剣に校内研究に取り組み、時代や地域、何より生徒の実態に即した本校なりのキャリア教育の形、教育課程を創り続けていくことになるだろう。本校の教育活動全てが生徒一人一人の生きる力と明るい将来につながることを信じ、全職員一丸となって「今金版キャリア教育」を創造していく。